※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１９

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	文学国語	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編文学国語　（大修館書店）						
副教材等	ビジュアルカラー国語便覧　改訂版（大修館書店） 読み・解き・覚える新版日本文学必携（第一学習社） つながるまとまる古文単語 500PLUS（いいずな書店） 基礎からのジャンプアップノート古典文法・演習ドリル改訂版（旺文社） 新演習古典アチーブ１三訂新版（桐原書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では、様々な年代の文学的文章に触れ、それぞれの作品を通して、「読む力」と「書く力」を身につけましょう。授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動も行います。課題に対し積極的に参加してください。

２　学習の到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語力を高めるとともに、文学作品の趣向や表現の味わいを感じ取り、作品を通して自らの考えを深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質や文体の特徴、修辞などの表現技法について理解を深める。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	登場人物の心情を捉える ［教材］ 「ナイン」	a：言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 b[読]：文章の内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c：作品を通して積極的に自分の考えを深めるとともに、自分の考えを他者へ効果的に伝えようとしている。	記述の点検 定期考査	記述の点検 定期考査	記述の点検 行動の観察
	作品の表現について考え、お互いの解釈を比較する ［教材］ 「永訣の朝」	a：文章の特徴や表現の技法について理解し、作品の内容を理解している。 b[書]：自分の思いが適切に伝わるような文章の構成や展開、表現の仕方などを使っている。 c：伝えたいことが伝わるように書かれているかを吟味し、工夫している。	記述の点検 定期考査	記述の点検 定期考査	記述の点検 行動の観察
二学期	古典作品を読解する ［教材］ 「児の飴食ひたること」 「かぐや姫の昇天」	a：古典の世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]：作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品の解釈を深めることができる。 c：積極的に古典の理解を深めようとしている。	記述の点検 定期考査	記述の点検 定期考査	記述の点検 行動の観察
	詩歌を通して表現する ［教材］ 「月やあらぬ」 「恋のうた」	a：心情の機微を表す語句や表現方法の量を増やし、効果的に使うことができる。 b[書]：自分の思いが適切に伝わるような文章の構成や展開、表現の仕方などを使っている。 c：伝えたいことが伝わるように書かれているかを吟味し、工夫している。	記述の点検 定期考査	記述の点検 定期考査	記述の点検 行動の観察
	漢文調の文章の魅力を味わう ［教材］ 「山月記」	a：文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。 b[読]：漢文調の文体の特徴を踏まえて、内容を的確に捉えることができる。 c：作品の解釈を踏まえ、自分の考えを深めようとしている。	記述の点検 定期考査	記述の点検 定期考査	記述の点検 行動の観察
三学期	作品を通して、生き方や社会との関りを考える ［教材］ 「鞄」 「その日東京駅五時二十五分」	a：文章の特徴や表現の技法について理解し、作品の内容を理解している。 b[読]：作品を通じて人間、社会、自然に対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 c：作品を基に自分の生き方や社会との関りについて深く考えようとしている。	記述の点検 定期考査	記述の点検 定期考査	記述の点検 行動の観察

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　）時間

・書くこと　…　（　１５～２０　）時間

・読むこと　…　（　５０～５５　）時間